

# ドリルアップ国語3年の特長と使い方

## はじめに

このドリルアップ国語は、中学校の3年間で学習する国語の知識事項のまとめとして使用していただくことを目的として編集されたものです。

国語の力をつけるためには読書が一番、とよく言われますが、そうは言っても、漢字や語句、文法の知識などは何度も繰り返し練習しなければ身につけません。このドリルアップ国語を計画的に活用していただくことで、高校入試に自信をもって臨むだけの国語の知識が身につくことと信じます。

## 特長と使い方

1 各回の構成……各回とも、表面に漢字の読み書き、裏面に語句・文法などの知識に関する問題が収めてあります。各回とも一〇〇点満点の配点付きで、理解度のチェックが容易にできるようになっていきます。左のもくじで示した単元名は、裏面の知識事項の単元名です。

2 全体の構成……漢字の読み書きは、入試によく出題されるものを選んであります。また、裏面では、中学で学習する語句・文法の知識に加えて、詩・短歌・俳句や古典を読むときに必要とされる知識もとりあげ、国語で覚えるべきことがこの一冊でマスターできるようになっています。

3 使い方……計画をたてて少しずつこなしていく以外に、入試の前に集中的にとりくむという方法もあります。

## もくじ

1	文の組み立て(1)	1	17	助動詞(2)	33
2	文の組み立て(2)	3	18	助動詞(3)	35
3	漢字の成り立ち・部首・画数・筆順	5	19	詩・短歌・俳句の知識(1)	37
4	漢字・熟語の読み	7	20	詩・短歌・俳句の知識(2)	39
5	単語のいろいろ(1)	9	21	四字熟語・故事成語	41
6	単語のいろいろ(2)	11	22	助詞(1)	43
7	送りがな 同音・同訓異字	13	23	助詞(2)	45
8	仮名づかい 類義語・対義語	15	24	言葉の識別(1)	47
9	体言	17	25	言葉の識別(2)	49
10	用言(1)——動詞	19	26	敬語の知識	51
11	用言(2)——形容詞・形容動詞	21	27	古典の知識(1)	53
12	同音異義語・三字熟語・漢語の組み立て	23	28	古典の知識(2)	55
13	副詞・連体詞・接続詞・感動詞(1)	25	29	文学史の知識	57
14	副詞・連体詞・接続詞・感動詞(2)	27	30	実力完成テスト(1)	59
15	慣用句・ことわざ	29	31	実力完成テスト(2)	61
16	助動詞(1)	31	32	実力完成テスト(3)	63

# 1 文の組み立て(1)

氏名

得点

100

1 次の——線の読みがなを書きなさい。 各1点

- (1) 彼の意図する所がわからぬ。 ( )
- (2) 野球の敗戦を悔いる。 ( )
- (3) この小説は不朽の名作だ。 ( )
- (4) 破れた服を繕う。 ( )
- (5) 母はきれいに装う。 ( )
- (6) 町が発展を遂げる。 ( )
- (7) 役者の口調をまねる。 ( )
- (8) 作文を添削してもらおう。 ( )
- (9) 不本意だが妥協した。 ( )
- (10) 物陰に潜む男はだれだ。 ( )
- (11) みごとな風景に感興を覚える。 ( )
- (12) 災害が起こる。 ( )
- (13) 犯人を懲らしめる。 ( )
- (14) 風で木が揺れる。 ( )
- (15) 類似した製品が出まわる。 ( )
- (16) 時間をむだに費やす。 ( )
- (17) 名残おしい気がする。 ( )
- (18) 安易な考えは役に立たない。 ( )
- (19) 弟のいたずらに憤る。 ( )
- (20) 出番を前に緊張する。 ( )
- (21) 規則を緩和することにした。 ( )
- (22) 兄のきげんを損なう。 ( )
- (23) まちがった箇所を直す。 ( )
- (24) 詳細に報告する。 ( )
- (25) 馬が草原を駆ける。 ( )

2 次の——線を漢字に直しなさい。 各1点

- (1) 勉強にセンネンする。 ( )
- (2) 郵便物をトドける。 ( )
- (3) 銀行にシユウシヨクする。 ( )
- (4) 荷物を両手でササえる。 ( )
- (5) 政治カイカクに取り組む。 ( )
- (6) 湖に山の姿がウツる。 ( )
- (7) 妹の過ちをセめる。 ( )
- (8) オウフク切符を買う。 ( )
- (9) 考え方がコトなる。 ( )
- (10) さくで庭をカコむ。 ( )
- (11) 力をハッキして優勝した。 ( )
- (12) 人をアナドることはよくない。 ( )
- (13) 動物をシユルイで分ける。 ( )
- (14) 自分の過ちをミトめる。 ( )
- (15) 友達を家にマネく。 ( )
- (16) 工作がやつとカンセイした。 ( )
- (17) 体重をソクテイする。 ( )
- (18) 昔恐竜がソンザイしていた。 ( )
- (19) 議長役目をツトめる。 ( )
- (20) フシギな事件に出会った。 ( )
- (21) コンナンなことをやりとげる。 ( )
- (22) 数学の答えをアヤマる。 ( )
- (23) オサナい子供を連れる。 ( )
- (24) 調査の資料をテイキョウする。 ( )
- (25) 要旨をカンケツに述べる。 ( )

3

- 次の(1)～(4)の文を、(例)のような形で文節と単語に分けなさい。
- (例) 鳥が鳴く。 → (文節)鳥が / 鳴く。 (単語)鳥 / が / 鳴く。
- (1) きのお、ぼくは姉と町へ行った。
- (2) 山の上に白い建物が立っています。
- (3) この機械では、考えているものを作ることできません。
- (4) 努力を続けたならば、きっと成功するだろう。

各4点

(4)		(3)		(2)		(1)	
単語	文節	単語	文節	単語	文節	単語	文節

4

- 次の(1)・(2)の文については——線の言葉の述語(部)を、(3)・(4)の文については——線の言葉の主語(部)をそれぞれ書きなさい。
- (1) 私はそれまで言い出さずにいた田舎行きを次郎の前に持ち出してみた。
- (2) 人間の耳は必要と感ずるものだけを聞く器官であることがはっきりする。
- (3) ある時私は、この癖が昔からあったのかと、懸命に考えたことがあった。
- (4) 長い間いつもひどく興味をさそわれつづけたものに、テレビの怪獣ものがありました。

各3点

(3)	(1)
(4)	(2)

5

- 次の(1)～(3)の——線の言葉が修飾している言葉を書きなさい。
- (1) 単に無駄口をたたくにしても、なるべくまずいい方はしないでおきたいものだ。
- (2) 私は今まで、二十数年あまり、さまざまな植物の花、実、幹、根を染めました。
- (3) 日本人が「自然の色は？」と聞かれて、まっさきに緑を思い浮かべるのは、日本の山野にいかにか植物が多  
 いかのあらわれである。

各2点

(3)	(1)
	(2)



